

新春 わかさ能

— 能楽の魅力探訪 —

正尊 山井綱雄
弁慶 佐藤俊之

能 正 尊

働キ入り

仕舞 佐保山 櫻間 右陣
東 北 高橋 忍
一調 勸進帳 山中 雅志
守家 由訓

令和9年
1月11日〈月曜祝日〉
13時半開始(12時半開場)
奈良春日野国際フォーラム 薨

〈入場料〉前売 一般：6000円 当日：一般 6500円
大学生相当 前売/当日：2000円 全席 自由
小中高生 前売/当日：1000円

※当日来場者用駐車場はございません。
身体障害等、ご事情のある方は奈良能へお問合せ下さい。
※未就学児童のご入場はご遠慮下さい。



令和8年
12/12(土)
10:00開講
9:45開場

わかさ能の切符提示で受講無料
当日会場でわかさ能の切符購入できます

お能って何?
バスタDE能楽入門講座

【会場】
奈良公園バスターミナルレクチャーホール
入場料：当日 1,000円(予約不要)

〈講師〉金春流シテ方楽師 佐藤俊之
観世流大鼓方楽師 森山泰幸

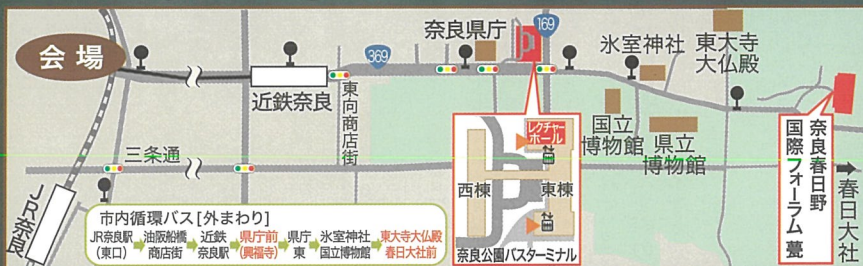
切符取扱：チケットぴあ Pコード 543792(要手数料)
お問合せ：下記奈良能事務所まで

〈チケット販売所〉

◎奈良能事務所
Tel: 0742(24)5171
(不在時留守電対応)
グーグルフォーム→
Mail: npohoujin.naranoh@gmail.com



◎オンラインチケット
チケットぴあ：Pコード 543793(要手数料)
◎奈良春日野国際フォーラム薨(休館日あり)
Tel.0742-27-2630
◎出演者



新春わかぐさ能

―能楽の魅力探訪―

令和九年一月十一日(月・祝)十三時半始
於 奈良春日野国際フォーラム 豊

本日の見所解説

山中雅志

《仕舞》

佐保山

シテ 櫻間右陣

田中直樹

東北

シテ 高橋 忍

地謡

辻井八郎

井上貴寛

湯本哲明

《一調》

謡 山中雅志

勸進帳

大鼓 守家由訓

〃 休憩 〃

《能》

立衆(正尊の家来) 湯本哲明

立衆(正尊の家来) 田中直樹

トモ(姉和光景) 金春嘉織

立衆(義経の家来) 雨宮悠大

立衆(義経の家来) 中村昌弘

子方(静御前) 森山綾音

子方(源義経) 森山詩織

ツレ(正尊) 山井綱雄

シテ(弁慶) 佐藤俊之

正尊

働キ入り

アイ(侍女) 茂山忠三郎

大鼓 森山泰幸

小鼓 荒木建作

太鼓 上田慎也

笛 斉藤 敦

後見

櫻間右陣

地謡

松浦良太

中田能光

岩切康弘

辻井八郎

高橋 忍

井上貴寛

主催

奈良能

※事情により、演者を変更させて頂く場合がございます。

今回の若草能は劇的な演目を中心に見ていただきます。

■仕舞 佐保山 (さおやま) シテ…佐保山姫

金春にのみ現存する曲で、平城京の東を守る佐保山姫が登場し、衣や春を祝います。

「山姫の袖 返す霞のうす衣…」雨土くれを動かさず、世を守る佐保姫のめでたきためしなるべしや…

■仕舞 東北 (とうほく) キリ シテ…和泉式部の霊

金春流「東北」のキリ(終盤)は他流にない祝祭感のある詞章が、柔らかい強吟(ごうぎん)で謡われます。

「春鶯囀(しゅんのうでん)」という楽は、これ春の鶯…「好文木はさていかにこれ文を好む木なるべし…」

■一調 勸進帳 シテ…武蔵坊弁慶

能「安宅」の勸進帳は正尊の起請文同様の重習いの曲です。観世流の謡と観世流大鼓で聞いて頂きます。

「巻物一巻取り出だし 勸進帳と名付けつつ 高らかにこそ読み上げけれ…」

■能 正尊 (しょうぞん)

登場人物―前シテ…全て直面(ひためん)一面なし)

シテ	武蔵坊弁慶	比叡山西塔僧兵 義経郎党 正尊から主君義経を守る
ツレ	土佐坊正尊	興福寺僧兵 頼朝御家人 頼朝命により義経一行を襲う
子方	源義経	武将 頼朝と不仲になり 正尊から命を狙われる
子方	静御前	白拍子 義経を慕って帯同 宴席で舞を舞う
立衆二人	江田源三/熊井太郎	義経郎党 正尊を組み伏せる
トモ	姉和光景	正尊郎等 弁慶と切り組む
立衆二人	正尊の家来	正尊郎等 姉和に付き従う
アイ	侍女	義経方召使 正尊の宿所を探索する

概要 平家物語「巻第十二「土佐房被斬(ときぼうのきられ)」を元に、頼朝と義経の確執を主題とした現在能です。喜多/観世/宝生流は江戸時代から、金剛流は明治、金春流は戦後からの曲です。喜多/観世/宝生ではシテ正尊―ワキ弁慶で起請文は正尊が読み、金剛/金春ではシテ弁慶―ツレ正尊で起請文は弁慶が読みます。

起請文とは神仏に誓いを立てる文書書面です。今回は小書き(特殊演出)が付き、打合働キが有ります。

あらすじ(舞台展開) 所は京都。(弁慶が名乗りが続いて語る)義経―判官殿は平家を滅ぼし、褒賞あるべきはずが、讒言により兄頼朝―鎌倉殿と不仲になり、近習も鎌倉へ下向、そこに正尊が上洛する。義経は正尊を怪しく思い、真意を質すために弁慶を正尊の旅宿へ遣わす(弁慶幕へ向かつて正尊を呼び出す。橋掛りが旅宿になる)。正尊は「熊野詣…病氣…」と言い逃れるが、弁慶により義経の前(舞台)に引き出され、義経を討つためであらうと詰問される。正尊は言い逃れの為にあらゆる神仏に嘘の誓いを立てて書面にしたため(後見座で文を受け取る)、弁慶はそれを取り上げて読み上げる。敬つて申す起請文の事…。義経は虚言とは思ったが正尊に酒盃を与え、静は座興に舞を舞う(中ノ舞)。やがて夜になり、正尊は宿に戻る(幕に入る)。この機に弁慶が侍女を正尊の旅宿に遣つて探らせると、正尊一行が討つて出るところであるとの報を受け、義経一同武具を備えて(物着―ものぎ―舞台で装束を替える)待ち受ける。そこへ家来を従えた頭巾姿の正尊が攻め来る(橋掛りに登場)。「白波とよそにや聞かんわだずみの…」(打合働キ―うちあいはたらき―戦闘場面。斬られた者は安座などで死を表した後、切戸口に退く)双方刀や長刀で戦い、刀を捨ててとつ組み合い、正尊は弁慶に投げつけられて縄をかけられ、義経の前に引きすえられ、義経一同は喜び勇んで引き上げる。

見どころ聞きどころ 演劇的なお能なので、脳内をフル活動させて、場面々々を想像しながらご覧下さい。見どころは前半の弁慶と正尊の腹の探り合い、緊迫した言葉の遣り取り、聞きどころは曰くありげに読まれる起請文の謡、後半でのチャンバラ活劇は能楽の魅力である形式美をお楽しみください。